

蓬田村地震ハザードマップ

■緊急時の連絡先 ～いざというときの連絡先～

事件・事故	110
火災・救急	119
災害用伝言ダイヤル	171
蓬田村役場	0174-27-2111

■安否情報の確認 ～災害用伝言ダイヤル171の使い方～

災害用伝言ダイヤルは、被災地への通信が増加してつながりにくくなった時に提供されるNTTのサービスです。

サービスの開始は、テレビ・ラジオ等でお知らせがあります。

171→1

被災した家の電話番号

ガイダンス（説明）がながれます。

被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

伝言を入れる（30秒以内）

171→2

被災した家の電話番号

ガイダンス（説明）がながれます。

被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

伝言を聞く

平成22年11月 青森県蓬田村

■地震への備え／わが家の防災メモ

○被害を防ぐポイント

家の周囲の安全確認

- 屋根：不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておきましょう。
- ベランダ：植木鉢などの整理整頓を。
- 窓ガラス：飛散防止フィルムを貼りましょう。
- ブロック塀：ブロック塀はしっかり点検補強をおきましょう。
- プロパンガス：ボンベをしっかりと固定しておきましょう。

家の中の安全確認

- 戸建住宅などの場合はできるだけ2階で寝るようにしましょう。
- 家具には、転倒防止金具を取り付けましょう。
- 部屋の入り口付近には物を置かないようにしましょう。
- テレビや置物などには、すべり止めを取り付けましょう。
- 食器棚、本棚などは、とめ金具を取り付けましょう。

L型金具

とめ金具

○わが家の防災メモ

名 前	電話(会社・学校・携帯)	メモ

メモ欄(その他連絡事項、避難所への行き方などを記入しておきましょう)

蓬田村地震ハザードマップ(発行:平成22年) 蓬田村役場〒030-1211青森県東津軽郡蓬田村大字蓬田字汐越1-3

■ハザードマップとは

○地震ハザードマップとは

地震ハザードマップは、地震発生時に予測される震度分布図に、避難場所などの防災に関する情報を表したマップです。自宅や学校、職場などで予測される震度や災害時の避難場所、家の安全性などを確認し、防災対策に役立てましょう。

○地震ハザードマップを利用して防災意識を高めよう!

巨大な地震が発生すると建物や倒壊する被害が発生するだけでなく、その建物や家具の下敷きになるなどの人的被害が生じます。また、道路や電気、ガス、水道などのライフラインが寸断され、火災が発生するなど、大きな被害に発展する恐れがあります。阪神淡路大震災では、犠牲者の約8割以上が住宅などの倒壊による圧死といわれています。大きな地震から人命や財産を守るためには、住宅などの耐震化が必要です。地震に備えるためには、地域で発生する恐れがある地震、建物被害などの可能性を充分に理解し、防災に対する意識を高めることが重要です。

○地震ハザードマップの内容

ゆれやすさマップ

「ゆれやすさマップ」とは、蓬田村に影響のある海溝型の地震、活断層の地震、その他の地震について、それぞれ震度分布を作成し、それらを総合化して50メートルメッシュごとに想定される震度の最大値を表現した地図(最大震度分布図)です。全域が同時にこの震度になることを表現しているものではありません。また、ここで表示される震度は、地震の規模や震源の距離から予想される平均的な揺れの強さであり、地震の発生の仕方によっては、揺れはこれよりも強くなったり、弱くなったりすることがあります。なお、想定地震は、内閣府防災担当「地震防災マップ作成技術資料」(平成17年3月)に基づき設定しています。

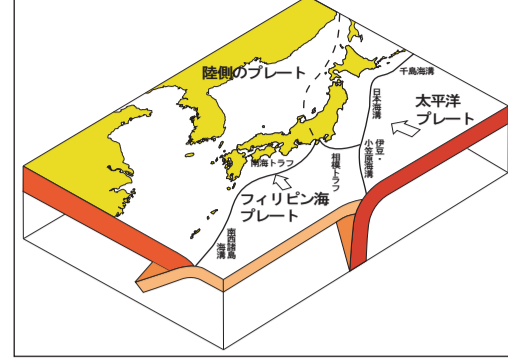
地域の危険度マップ

「地域の危険度マップ」とは、「ゆれやすさマップ」で示された地域ごとの震度と、建物の構造(木造・非木造の別)及び建築年次別の建物棟数の推計結果と、過去に生じた地震による各地の建物の被害状況に基づく経験式から、50mメッシュ単位でメッシュ内の全壊する建物の割合(全壊率)を算出し、それを5段階で地域の危険度として示したものです。この危険度が高い地域ほど、相対的に被害を受けやすい建物が多いことを示しています。なお、実際には、地震に対する建物の強さは、個々の建物によって異なります。そのため、危険度が高い地域であっても、耐震性の高い建物は倒壊の危険性が低くなります。特に建築してから年数が経過した古い木造建物は、地震に弱い傾向があります。古い木造建築にお住まいの方は、耐震診断を受け、必要な場合は耐震改修工事を行うことをおすすめします。

■地震の知識①

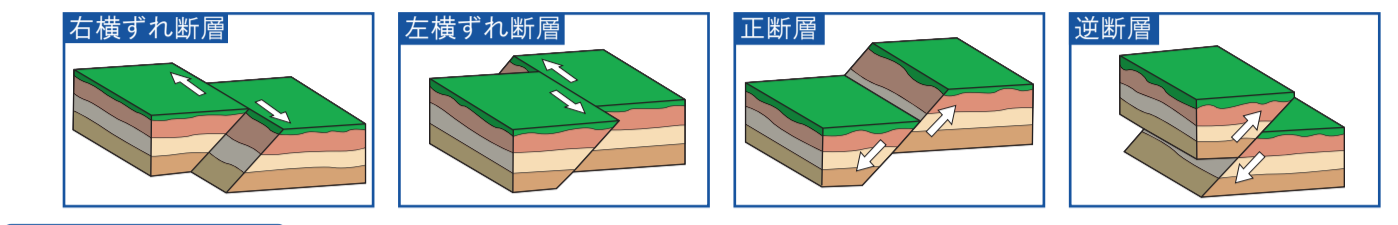
○地震の起こるしくみ

日本は、「陸側のプレート」と「太平洋プレート」、「フィリピン海プレート」の境界に位置しており、地震が多く発生する国です。地震の起こり方は、大きく「活断層地震」と「海溝型地震」の2種類に分けられます。



活断層地震

地下の岩盤に、押し合ったり引っ張りあ力が加わるときで、そのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、ある断層面に境に地盤がずれ動き、地震が起こります。

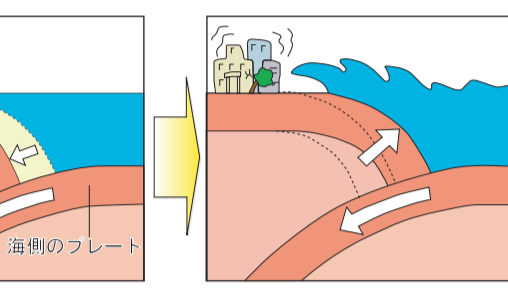


海溝型地震

海側のプレートが陸側のプレートの下にもぐりこむことで、境界付近のエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときにプレートが元に戻ろうとしてねじ上がり、地震が起こります。「太平洋プレート」と「フィリピン海プレート」は、年間数cmの割合で「陸側のプレート」にもぐりこんでいます。

【震度とマグニチュード】

地震のエネルギーの大きさをマグニチュードと呼び、地面が揺れる大きさを震度と呼びます。マグニチュードが大きい地震でも、震源が深い場合や深い場合は、震度が小さくなります。マグニチュードが1増えると、地震のエネルギーは約3.2倍になります。したがって、マグニチュード8の地震は、マグニチュード7の地震の約32倍ものエネルギーをもった地震であるといえます。



○震度と想定される被害～震度による人や建物、家具などへの影響～

震度	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。		
1	室内で寝かしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がある。		
2	室内で寝かしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。	電灯などのつり下げ物や、わずかに揺れる。	
3	室内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人、歩いている人のほとんどが、目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。
4	ほとんどの人が強く、歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物には大きく揺れ、棚にある食器類、書籍の本が落ちることがある。座りの悪い建物の大半が揺れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは揺れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
5 弱	大半の人が、恐怖を覚え、胸につつまりたいと感ずる。	電灯などのつり下げ物には大きく揺れ、棚にある食器類、書籍の本が落ちることがある。座りの悪い建物の大半が揺れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは揺れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
5 強	大半の人が、胸につつまらなだけでなくひどく感ずることが多い。揺れに不安を感じる。	棚にある食器類や書籍の本で、揺れるものが多くなる。固定していない家具が揺れることがある。固定していない家具が揺れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないプロック等が揺れることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
6 弱	立てていることが困難になる。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多い。	壁のタイルやガラスが破損。落下する建物が多い。
6 強	立てていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほとんどつかない。動くことができない。揺れにほとんどつかない。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多い。	壁のタイルやガラスが破損。落下する建物が多い。
7	立てていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほとんどつかない。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多い。	壁のタイルやガラスが破損。落下する建物が多い。

資料:「気象庁震度階級連絡表」(平成21年3月31日改定)

■地震の知識②

○過去の地震被害 ～青森県に被害を与えた主な地震とその被害状況

年月日(旧暦年)	震央・主震地	被害概要
1611年12月2日(慶長16年10月28日)	三陸・前美(M=8.1)	大津波あり。伊達領で溺死1,783。南部、津軽で人命3,000余。
1667年8月22日(寛文7年7月3日)	八戸(M=6.0~4.0)	八戸地方強震。建物被害多し。
1674年4月15日(延宝2年3月10日)	八戸(M=6.0)	同上。
1694年6月19日(元禄7年5月27日)	能代(M=7.0)	地割れ、砂吹け、岩山噴火(秋田能代特大地震、被害大)。
1704年5月27日(宝永元年4月24日)	羽後・津軽(M=7.0±1.4)	家屋倒壊485、傷死759。能代～岩崎間死者58。海岸まで沈む川に船破損。
1739年8月16日(元文4年7月12日)	陸奥・南部	陸奥南部地方大地震。八戸家被害多し。青森でも被害。全壊多し。
1763年1月29日(宝暦12年12月16日)	陸奥八戸(M=7.4)	津波あり。人家土蔵機梁破損多数。諸川漲溢して田母多数没。船沈没20。堤防破損。
1763年3月11日(宝暦13年1月27日)	陸奥八戸(M=7.1)	余震やます本日再び大強震。建物倒壊、全壊に及ぶ。惨状目撃。
1763年3月15日(宝暦13年1月27日)	陸奥八戸(M=7.0)	八戸地方再三強震。津波に津波。人命流失多数。4月まで余震続発す。
1766年3月9日(昭和31年1月28日)	津軽(M=7.1±1.4)	弘前市内で湧き6.940。焼失252。死1,027。焼死308。地盤顕露。
1768年9月8日(昭和5年7月28日)	陸奥八戸	八戸強震。家屋、病人など被害少なからず。
1769年7月12日(昭和6年6月9日)	陸奥八戸(M=6.0 1.2?)	陸奥中津、津軽、備前など被害少なからず。大橋落下。
1793年2月8日(寛政4年12月28日)	西津軽(M=6.9~7.1)	清家164。半壊261。死者12。小津波あり。餅つき・木造・金木被害大。
1848年1月13日(弘化4年12月8日)	津軽青石(M=6.0±0.2)	須賀～黒石間で猛烈に濁家あり。
1856年8月23日(安政3年7月23日)	日高・胆振・津軽・南部(M=7.5)	希有の強震。家中町被害被害にいとまなし。津村津波、津波家屋多し。
1896年6月15日(明治29年)	三陸沖(M=8.1/4)	死者27,122。傷者5,451。家屋全壊8,526。全壊776。青森県死者345。傷者211。八戸電線30m。余震多し。
1901年8月9日(明治34年)	青森県東方沖(M=7.2)	八戸～青森大地震。三郡被害大。全壊8。半壊615。死者18。小津波あり。
1935年3月3日(昭和10年)	三陸沖(太平洋沖) (M=7.0)	大津波。青森県死者1,483。死者1,516。傷者659。家屋全壊4,917。船沈没1,597。青森県死者30。行方不明10。負傷者70。家屋全壊151。船沈没320。家屋損壊320。破壊312。
1945年10月10日(昭和20年)	青森県東方沖(M=7.1)	震度八戸。IV青森。III深浦。八戸地方強震。ガラス窓破損。家屋倒壊。死者2名。
1960年5月24日(昭和35年)	南米南部(M=8.0)	津波津波。太平洋洋津波。全国で死者1,011。家屋被害46,214。その他被害甚大。青森県死者行方不明3。家屋全壊24。半壊911。船沈没19。破壊445。津波被害27名余。津波津波八戸318m。青森159cm。
1968年5月16日(昭和43年)	三陸沖・青森県東方(M=7.9)	1968年沖津波。震度八戸。田名部・青森。IV弘前。III深浦。津波最大全壊戸8/159cm。死者16。行方不明1。負傷者70。家屋全壊458。半壊1,745。全半壊30。死者2名。死者329名。死者470名。死者。
1968年5月26日(昭和43年)	秋田沖沖(M=7.7)	1968年(昭和43年) 日本海中部地震。震度V青森。IV青森。八戸。大津波が西津軽一帯に波及。死者17名。負傷者25名。全壊447棟。一部破壊85棟。一部破壊3,018棟。床上浸水625棟。床上浸水152棟。被害総額16億14,956万円。
1994年12月28日(平成6年)	三陸沖(M=7.6)	1994年(平成6年) 三陸沖の沖津波。震度八戸。IV青森。IV弘前。III深浦。津波最大全壊戸444cm。死者5名。負傷者85名。全壊553棟。半壊343棟。一部損壊7,020棟。被害総額693億5,054万円。死者5名。負傷者85名。資料:「青森県地震防災計画(資料)」 青森県庁防災課

■地震時の心得①

○地震発生時の行動

地震発生時は、あわてず、落ち着いて、身の周りの安全を確認しましょう。



地震発生 2分	5分	10分	数時間	3日(時間の目安)
身の安全	火の確認	家族の安全	避難の準備	救出活動
落ち着く! 身を守る! 火を消す!	出口の確認! 周囲の火の点検! 確! 情報(ラジオ等)を聞く!	余震注意! 家族の安全の確認! 情報(ラジオ等)を聞き! 持出品用意!	災害時要援護者の安全の確認! ガス栓閉め! プレーカー一切を! 行き先メモを玄関に貼る!	非常備蓄品で避難生活! 地域のみなで助け合い! ルールを守って避難生活!

◆いざというときの助け合い ～自主防災組織～
大規模な地震災害が発生した場合、身の安全を自分で守るには限界があります。地震直後に発生する火災の消火や、ガレキに埋もれた人の救出など、いざというときは、隣近所の協力、助け合いが大切です。自主防災組織は、地域の方々が互いに協力し、災害から自分たちの地域を守るために結成される組織です。地震は、いつ起こるかわかりません。日頃から、近所同士が少しでもコミュニケーションを深めておくことが大切です。

阪神・淡路大震災では、救助された人のうち、家族や近所の人などに助け出された人は約7割でした。大地震の直後は、消防や自衛隊が駆けつけられないことも多いです。自分たちの地域は自分たちで守るようになります。

○避難時の留意点

避難時は、余震に注意し、ケガをしないように落ち着いて避難しましょう。

火の元の確認	安全な服装	足元に注意
避難する前にもう一度、火の元を確認しましょう。	長袖、長ズボンなどの安全な服装で、建物のそばや細い路地を避け、徒歩で避難しましょう。	電柱、ブロック塀、ガラス、切れた電線などに注意。

■地震時の心得②

○地震による火災を防ぐために

火災が発生した場合は消火器などを使い、初期消火に努めましょう。まず、周囲に「早く知らせ」、小さい火事のうちに「早く消し」、天井まで火が燃え広がったら「早く逃げましょう」。防災訓練などでは、消火器の使い方を練習しておきましょう。

【消火器がない場合の火元別初期消火方法】

油なべ

水をかけてはいけません。毛布や大きめのタオルをのらして、火の手前から安全な場所に逃げます。

石油ストーブ

上から一気に水をかけます。灯油がこぼれていたら毛布で覆ってからの水をかけます。

衣類

転がらぬよう火を消します。髪の毛の揺れで、顔からタオルなどの布をかぶります。

【地震保険について】

地震保険は地震や噴火、津波を原因とする火災、損壊、埋没または流失による損害を補償する地震災害専用の保険です。地震保険は、火災保険に付帯する方式での契約となり、火災保険への加入が前提となります。詳しくは、各損害保険会社の相談窓口または代理店にご相談ください。

○応急手当

地震時に多数の人がけがをした場合は、救急隊による救護が望めないことも考えられます。そのような事態に備え、適切な応急手当の方法を身につけておきましょう。

【出血したとき】

- 傷口にガーゼや布を直接当てて、強く圧迫します。
- 手足は心臓より高い位置に上げると血が止まりやすくなります。
- 止血ができない場合は、傷口から心臓に近いところを、包帯などで強く結び圧迫します。

【骨折したとき】

- 動かさないようにし、傷があれば止血・消毒します。
- 添え木は身近なものを代用し、骨折部分の上下の関節を2カ所以上結んで固定します。

【やけどをしたとき】

- やけどをしたところをすばやく水で冷やします。痛みや熱を感じなくなるまで充分冷やします。
- 服を着ている場合は、そのまま服の上から水をかけて冷やします。
- 広い範囲でやけどをした場合は、ホースやバケツなどで水をかけるか、浴槽の水につかって冷やします。

■耐震診断のすすめ

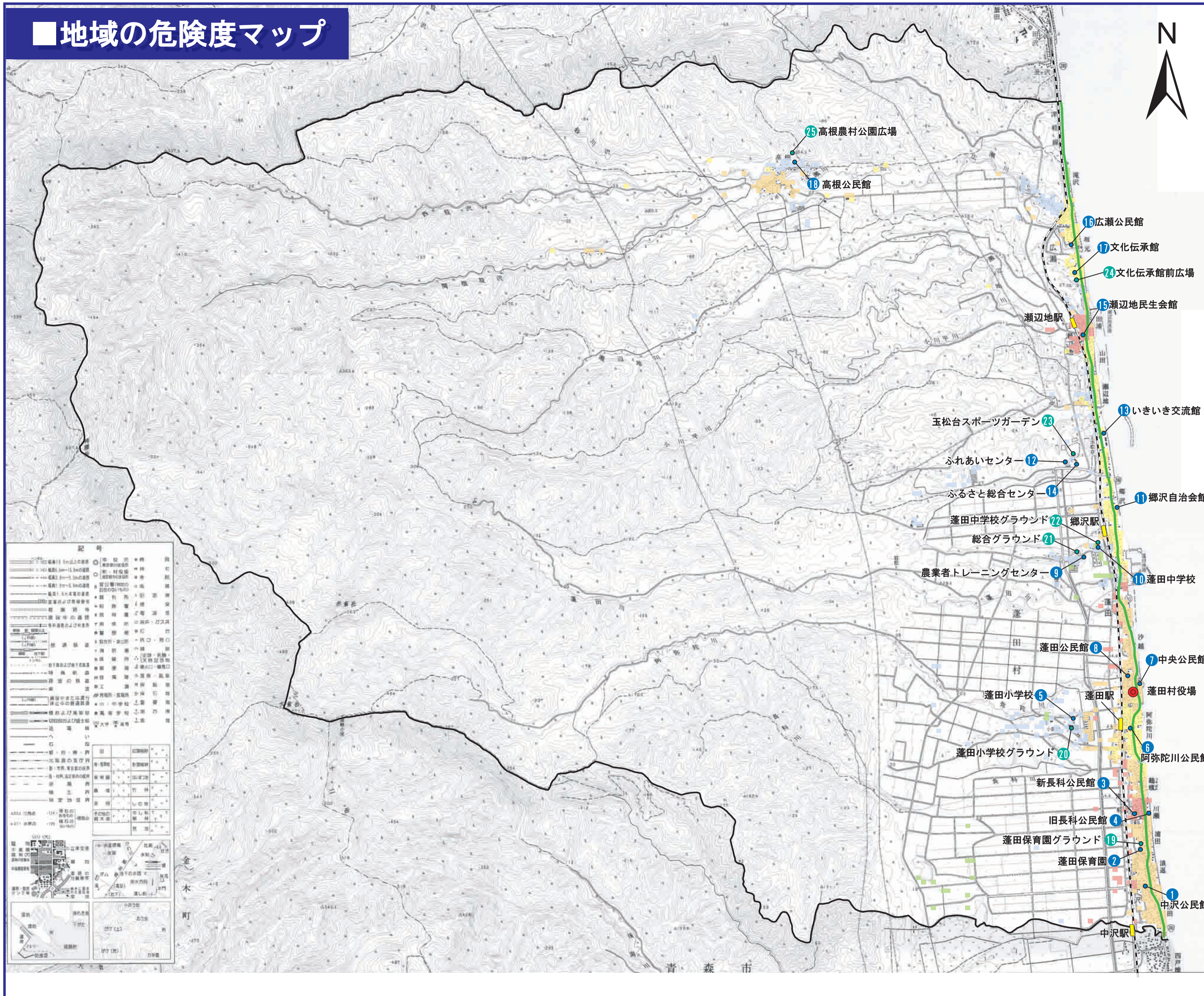
○家の安全性を確認しましょう! ～誰にでもできるわが家の耐震診断～

地震の被害から命を守るためには住宅の耐震性を高めることが重要です。一般の木造住宅(1～2階)は下の表を使って簡易的に診断が行えます。※近年新築されたもの以外の建物はぜひ診断して下さい。 [出典: (財)日本建築防災協会]

問診	項目	評価	解説図(問診)
建てたのはいつですか? (説明)	建てたのは1981年6月以降。	1	(問診1)
1	1981年6月に建築基準法が改正され、耐震基準が強化されました。1995年阪神淡路大震災を受けて、1981年以降で建てられた建物の被害が少なかったことが報告されています。	0	(問診2)
2	いままで大きな災害に見舞われたことはありますか? (説明)	0	(問診3)
3	増築について (説明)	0	(問診4)
4	増築について (説明)	0	(問診5)
5	大きな吹き抜けがありますか? (説明)	0	(問診6)
6	大きな吹き抜けがありますか? (説明)	0	(問診7)
7	1階と2階の壁面が一致しますか? (説明)	0	(問診8)
8	壁の配置はバランスがとれていますか? (説明)	0	(問診9)
9	基礎がコンクリートか? (説明)	0	(問診10)
判定	問診1～10項目を合計します。	判定・今後の対策	評価合計
10点以上	ひとまず安心ですが、念のため専門家診てもらいましょう		
8-9点	専門家診てもらいましょう		
7点以下	心配なので、早めに専門家診てもらいましょう		

蓬田村地震ハザードマップ

■地域の危険度マップ



■屋内避難所

番号	施設名	所在地	施設電話
1	中沢公民館	中沢字浪返4番地1	27-3302
2	蓬田保育園	中沢字浪返48番地2	27-2180
3	新長科公民館	長科字川瀬43番地1	27-2931
4	旧長科公民館	長科字川瀬14番地2	27-2035
5	蓬田小学校	阿弥陀川字汐干198番地148	27-2069
6	阿弥陀川公民館	阿弥陀川字汐干56番地11	27-2935
7	中央公民館	蓬田字汐越12番地	27-2076
8	蓬田公民館	蓬田字汐越36番地1	27-2415
9	農業者トレーニングセンター	蓬田字宮本41番地11	27-3010
10	郷沢中学校	郷沢字浜田138番地24	27-2304
11	郷沢自治会館	郷沢字浜田153番地11	27-2798
12	ふれあいセンター	郷沢字浜田136番地4	27-2170
13	いきいき交流館	瀬辺地字山田35番地84	27-2828
14	ふるさと総合センター	郷沢字浜田136番地76	31-3200
15	瀬辺地民生会館	瀬辺地字田浦35番地2	27-2767
16	広瀬公民館	広瀬字坂元608番地1	27-2643
17	文化伝承館	広瀬字坂元26番地1	電話番号なし
18	高根公民館	広瀬字坂元672番地1	27-2370

■屋外避難所

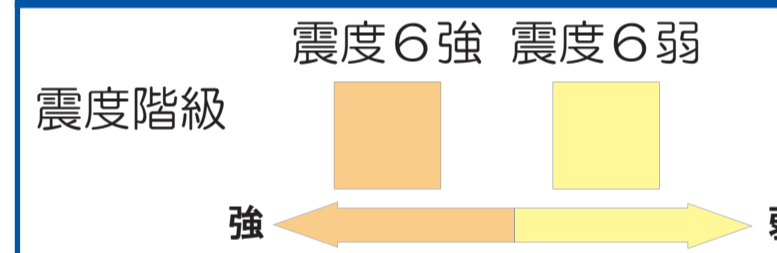
番号	施設名	所在地	施設電話
19	蓬田保育園グラウンド	長科字浦田38番地1	電話番号なし
20	蓬田小学校グラウンド	阿弥陀川字汐干198番地171	電話番号なし
21	総合グラウンド	郷沢字浜田138番地15	電話番号なし
22	蓬田中学校グラウンド	郷沢字浜田138番地24	電話番号なし
23	玉松台スポーツガーデン	瀬辺地字山田1番地31	電話番号なし
24	文化伝承館前広場	広瀬字坂元24番地	電話番号なし
25	高根農村公園広場	広瀬字坂元672番地1	電話番号なし

■ゆれやすさマップ

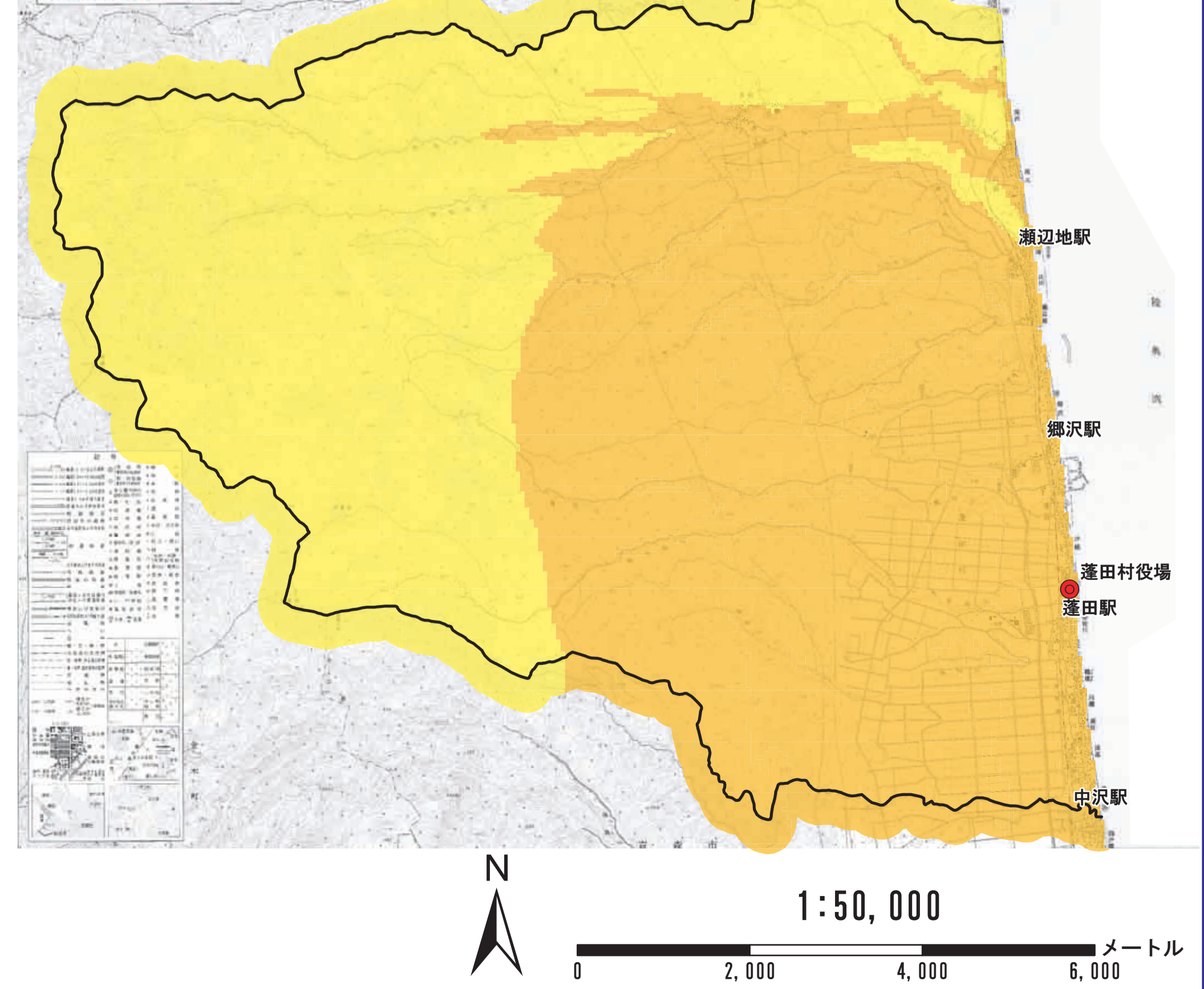
○ゆれやすさマップとは

ゆれやすさマップは、青森湾西岸断層帯の地震（規模：マグニチュード7.3）が発生した場合、村域で想定される震度分布を色分けして表示したものです。

ゆれやすさ



蓬田村全図



1:25,000



○地域の危険度マップとは

地域の危険度マップは、地震の揺れによって発生する可能性のある建物被害の大小の程度を危険度として表したものです。想定した揺れの大きさと、50mメッシュ内の建物の分布状況により、過去の地震被害による経験式から全壊被害を生じる建物数をもとめ、メッシュごとにその棟数割合を5ランクに分類しました。地域の危険度ランクはその数値が大きくなるほど、地震による建物被害を受ける可能性が高くなります。

地域の危険度

表示	ランク	地域内の建物の中で全壊する建物の割合
	危険度 5	30%以上
	危険度 4	25%以上30%未満
	危険度 3	20%以上25%未満
	危険度 2	15%以上20%未満
	危険度 1	15%未満

凡例

	行政界
	蓬田村役場
	第1次緊急輸送道路
	第2次緊急輸送道路
	屋内避難所
	屋外避難所
	鉄道